

ポニーのいる学校【第6回】



埼玉県立深谷はばたき特別支援学校 教諭

小松 文

研究会では、沢山のご意見をいただき、ありがとうございます。さらに勉強して頑張ります。

中でも「どうしてポニーなのか」、「ポニーがいることの意味は何か」という質問には、正直、何と答えればよいかわからず、今でも自分の課題になっています。そこで、今回はそのことを踏まえて、メロン、子ども、教員の変容を書きたいと思います。

<メロン>

- ・調馬索で左右両方の駆足ができるようになった。
- ・メロンが人を見る。(この人はこわい、この人はやさしい?)
- ・メロンが人を呼ぶ。

夏の間、遊具広場を独占しゆったりと過ごしていたメロンですが、涼しくなるにつれて運動のメニューが厳しくなり、また柵の修理もされたり自由に過ごせばかりはいられなくなりました。合図で走ったり止まったりできるようになり、人を意識して見ているようです。また、かかわりの多い職員の声で「メロン」と呼ばれたり、聞き慣れた足音がしたりすると「ぶひひー」と声を出しながら近づいてきます。



<子ども>

- ・何かをがんばったときのごほうびとしてメロンの世話を喜んで行う子どもがいる。
- ・メロンに乗った子どもが増えた。メロン以外の馬に乗ったことがある子どもも含めて、乗る前よりも、かかわれるようになった。
- ・メロンの近くで見たりふれたりしている子どもが増えた。

メロンが大好きで、がんばって勉強をした後のごほうびにしている子どもがいます。裏ほりやボロ掃除を喜んでしている姿は見ていて嬉しいものです。また、ハローヒボさんを招いて行われた施設での乗馬会や、授業の一環で行われた乗馬によって、メロンやそのほかの馬の背に乗った子どもたちは、ブラッシングもえさやりも以前よりスムーズにできるようになりました。



メロンの柵が修理され、子どもたちのいる時にはメロンは柵の中にいます。以前からそうだったのですが、勝手に柵を飛び越えていたので、子どもたちは自由に遊具広場に入れない状態でした。柵の中にいることで、かえってメロンの近くに子どもたちがいられるようになり、ふれたりえさやりをしたりすることが増えました。

<教員>

- ・調馬索をすることで教員自身が強くなった(気がする)。
- ・メロンについて考えることが増えた。



「速歩」と合図しても常歩から変化がなかったとき、こちらの合図の出し方を変えます。

メロンに変化がないということはこちらの思いが通じていないということなので、あきらめが許されない状況となり、自分に対して強くならざるを得ないのではないかと思います。また、どうして走らないか、今の合図はどうして通じたのか、とメロンの気持ちを考え、教員同士で話し合うようになりました。

実際にポニーを飼育している状況で、メロンがいない場合にはどうか、と比較することはできませんが、悪い方向に変わっていったということはないように思えます。今後の飼育や活用についての課題はまだたくさんあります。でも私の師匠が言っています。「やれることを地道に継続することが大事です。」

これからも、メロンと一緒にやれることを続けながら前進していきたいと思っています。



治療的乗馬「学習会」のご案内

JTRAでは、治療的乗馬の領域を知っていただくために、本会理事を中心とした講師により、どなたでも参加できる学習会を隔月に開催しています。お誘いあわせてご参加ください。

参加費は、資料代として一般の方500円、会員の方は無料です。資料の印刷部数を知る必要から、できるだけ、氏名/所属先名/メールアドレス/電話番号をご記入の上JTRA事務局までメールかFAXで予めお申し込みください。

なお、こんな内容を取り上げてほしいというご要望がありましたら、事務局までお寄せください。

第6回 <3月18日(月) 18:30~20:30>

場 所:四谷地域センター11階[集会室4](東京都新宿区内藤町87番地)

テーマ:肢体不自由における乗馬のアプローチ

講 師:柳迫康夫(東京農業大学、整形外科医師・本会理事)

内 容:1.歴史(オリンピック、療育乗馬)

2.基礎的事項 ○解剖学(体幹・下肢、体性感覚・脊髄)

○障害とリスク(脳、脊椎~脊髄) ○チャレンジ

3.農大の卒論にみる実践 ○下肢、体幹、その他

4.展望 ○ロボット活用 ○気づき:馬・坐骨から歩行

第7回 <5月13日(月) 18:30~20:30>

場 所:四谷地域センター11階[集会室4](東京都新宿区内藤町87番地)

テーマ:クライアントにあわせた乗馬時の配慮と工夫

講 師:滝坂信一(帝京科学大学、本会理事)

内 容:クライアントに障害がある場合、その内容によって、避けるべき活動や活動上の配慮や工夫をしなければならぬことがあります。今回は、どのような内容を予め知っておいたらいいのか、実践場面でのような配慮をすればよいのかについて考えます。

「JTRA 会員になるためには」

NPO日本治療的乗馬協会は、国内外の治療的乗馬や障害者乗馬にかかわる人々、そして関心を持つ人々の相互交流の機会、さらに関連情報の提供などを通じ、この領域の充実と普及を行うことを目的に設立されました。毎年11月に開催している「治療的乗馬研究集会」による実践や研究成果の報告と協議、ニュースレターやホームページによる情報の提供を行っています。

本協会は、会員会費、企業等からのご寄付や協賛金によって運営されています。趣旨にご賛同の皆様には、ぜひ会員になっていただけますようお願いいたします。会員になるための手続きにつきましては、ホームページをご覧ください。



特定非営利活動法人
日本治療的乗馬協会

<http://jtranet.jp>

「しらべてみよう」

「障害」と国内の団体、そして「障害者の権利条約」

「障害」をどのようなことと考えるか?それは、歴史の中で大きく変化してきました。第二次世界大戦後の動きを考えると、国際連合が提唱し、世界中で取り組まれた1981年の「国際障害者年」は大きな契機になりました。それ以降、「障害のある人々」の自立と社会への完全参加の実現を目指す取り組みは世界各国で展開されてきました。2012年度は、第2期「アジア太平洋障害者の10年」の最終年でした。これにあわせて作られたわが国の「障害者基本計画」は今年度で一つの区切りとなり、来年度は新たな障害者基本計画がスタートすることになります。

わが国の障害のある人々の人権問題には、「親の会」や「当事者の会」がとて大きな役割を果たしてきました。これらの会は、障害に対する社会の偏見や無知と息長く戦ってきました。その労苦と困難は人々の想像を遙かに超えるものだと思います。現在、その多くは、障害に関する最新の知識と情報を提供し、様々な社会活動を行っています。以下に、そのいくつかについて、インターネットで検索できるホームページをご紹介します。

- 社団法人日本自閉症協会 <http://www.autism.or.jp/>
- 財団法人日本ダウン症協会 <http://www.jdss.or.jp/>
- 社会福祉法人日本肢体不自由児協会 <http://www.nishikyoo.or.jp/>
- 社会福祉法人全日本手をつなぐ育成会 <http://www.ikuseikai-japan.jp/>
- 日本二分骨椎症協会 <http://sba.jp.com/index.html>
- 特定非営利活動法人えじそんくらぶ <http://www.e-club.jp/>
- 特定非営利活動法人アスベ・エルデの会 <http://www.as-japan.jp/j/index.html>
- 社団法人日本筋ジストロフィー症協会 <http://www.jmda.or.jp/>
- 日本レット症候群協会 <http://www.rett.gr.jp/> (順不同)

さて、日本政府は2006年に国際連合第61回総会で採択された「障害者の権利条約」を批准しようとしています。この条約の基本理念は、障害を理由とする差別の禁止です。世界では2013年1月現在127カ国がこの条約を批准していますが、日本は多くの制度(法律)を改正する必要がありまだ批准に至っていません。この内容や国が検討している内容は、以下のホームページで観ることができます。

- 外務省(「障害者の権利に関する条約」仮訳) http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/treaty/shomei_32.html
- 内閣府「障がい者制度改革推進本部」 <http://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/kaikaku/kaikaku.html>
- 内閣府「障害者政策委員会」 http://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/seisaku_jinkai/index.html

この数年の間に、障害のある人々に対する私たちの国の仕組みが大きく変わる可能性があります。それは、社会全体が変わることです。

なお、国際連合の関連ページは、<http://www.un.org/disabilities/default.asp?id=17> です。(滝坂信一)

【編集後記】

この数年、馬をめぐる国内の状況が大きく変化してきていることを感じます。農耕や荷物の運送が中心だった時代、軍馬が求められた時代、競走馬がほとんどを占めた時代、いずれも、私たちの社会を映し出すものです。私たちの領域が健全にそだち定着していきける社会を願うばかりです。皆様と一緒にその実現に取り組んでいきたいと思っています。(滝坂信一/本会理事長)



特定非営利活動法人
日本治療的乗馬協会

HETI 2013.Feb.14.Vol.12
<http://jtranet.jp>

JTRA Newsletter

Japan Therapeutic Riding Association

編集・発行:特定非営利活動法人 日本治療的乗馬協会 〒161-0031 東京都新宿区西落合2-6-6 Tel.03-3565-6641



チャレンジ!!(木曽馬の里にて)

第9回「治療的乗馬」研究集会2013

2013年も早2ヶ月を過ぎ、そちこちに春の足音が聞こえる季節になりました。

皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

さて、第9回目の研究集会となります今年の「治療的乗馬研究集会2013」のご案内をいたします。

今大会は大会テーマや内容の企画について、

全日本障害者乗馬協議会、財団法人ハーモニセンター、一般社団法人日本障害者乗馬協会、

特定非営利活動法人 RDA Japanのご協力をいただき、実施する事になりました。

大会テーマおよび記念講演等を現在企画中です。

皆様のご参加、実践や研究の報告を心からお待ちしております。

日時:2013年11月9日(土)・10日(日)

場所:国立オリンピック記念青少年総合センター

なお、午年となる来年、研究集会は第10回目を迎えます。

こちらにつきましても、先の4団体の皆様にご意見をうかがう機会を去る1月29日、東京都内にて

もちました際、共同開催を視野に企画を進めることにご賛同をいただきました。

企画内容について、皆様からも是非ご意見を寄せいただければ幸いです。

ドイツ乗馬(施設)レポート

[第5回] ~ドイツ治療的乗馬協会・資格制度について~

“馬を介した特殊教育的支援の専門家”プログラム(2年)

在・ドイツNRW州
佐久川 未来

<経歴>東京都立川市生まれ/日本獣医畜産大学 畜産学科(現・日本獣生命科学大学) ヤマハつま恋乗馬クラブ勤務/ドイツ国際平和村にて1年間の研修 LVR Fachschule des Sozialwesens卒/Heilerziehungspflegerin(障害児者教育・介護士)の資格取得 デュッセルドルフの特別支援学校にて、インテグレーションヘルパーとして勤務 ドイツ馬術連盟公認乗馬トレーナー資格を取得/ドイツ治療的乗馬協会の研修プログラムに参加中

ドイツ治療的乗馬の資格取得プログラムの概要については、前々回のドイツ乗馬(施設)レポート第3回にてご紹介いたしました。今回は、中でも、私が現在参加している“馬を介した特殊教育的支援の専門家”資格取得プログラム(2年)についてレポートしたいと思います。

ノルドライン＝ウェストファーレン州 “馬を介した特殊教育的支援の専門家”資格取得プログラム

2008年に開始されたこの新しい資格制度は、ビーレフェルト市・ドルトムント市の福祉教育系の職業専門学校2校とドイツ治療的乗馬協会(DKThR)の提携のもと、州の教育制度に則って毎年交互に開校されています。このプログラムは就業しながら参加できるスクーリング形式となっており、2年間のうち計10回のスクーリング参加、1年半にわたる実習(週一頻度)、ピアグループ活動が必須となっています。

馬を介した特殊教育的支援の専門家とは？

教育・心理的な職業資格、なおかつ乗馬又は軽乗のトレーナーライセンスを持つ者が所定のプログラムを終了すると、ノルドライン＝ウェストファーレン州認定の馬を介した特殊教育支援の専門家の資格を得ることができます。

馬の助けを借りて、色々な設定で総括的に人の発達・成長を促すことを目標とし、様々なニーズを持つ人々(学習・知的・社会情緒的・身体運動の発達等)へ教育的、心理的、社会復帰・社会参加的なアプローチを行うものです。この活動は、すべての年齢層を対象とし各個またはグループで実践されます。活動の領域としては、おもに学校・青少年施設・教育相談所・病院・障害者のための施設・登録団体等があげられます。

学習施設

ビーレフェルト

理論：職業専門学校 Berufskollegs F. v. Bodelschwingh Schulen

実践：Therapeutische Reiten in Bethel
Zentrum für Therapeutisches Reiten in Köln-Porz

ドルトムント

理論：職業専門学校 Gisbert-von-Romberg Berufskolleg*1

実践：Kultur Aktiv e. V.
Zentrum für Therapeutisches Reiten der Werkstätten der AWO

今年2012年10月には、第4期プログラムがドルトムントでスタートしました。

おもな学習分野*2

- ・馬を介した特殊教育的支援の領域
- ・馬の調教
- ・トライアングル関係“クライアント・馬・教育者”における関係の形成
- ・特殊教育的支援
- ・計画
- ・実践
- ・記録
- ・評価
- ・経営的
- ・法的背景

試験・卒業

- ・口頭
- ・筆記試験
- ・レポート提出
- ・プロジェクトワーク



2011年プロジェクト発表会の様子
(左)子ども家庭相談センターでの実践
(右)視覚障害と知的障害を併せ持つクライアントへの実践

第1回スクーリング(ドルトムント)に参加して

2012年10月24～28日の5日間にわたって、ドルトムントの職業専門学校Gisbert-von-Romberg Berufskollegで行われた第1回目のスクーリングに参加してきました。北はベルリン、南はミュンヘンとドイツ全土から集まった受講生は計22名(男性1名と女性21名)。5日分の大荷物を抱え緊張した面持ちで教室へと入ってきた参加者1人1人を、4人の教師陣があたたかく迎え入れてくれました。福祉・教育等のテーマを担当するGisbert-von-Romberg Berufskollegの先生2名と、ドイツ治療的乗馬協会の講師であり実践授業を担当する先生2名。この4人の先生たちが、これから2年間のプログラム期間中参加者のフォローをしてくれることになります。まずは、ドイツらしくスパークリングワイン(一応学校なのでノンアルコール)で乾杯し、2年間の資格取得プログラムをスタートしました。

スクーリング期間中、専門学校と乗馬施設“Kultur Aktiv e. V.”の両方で理論と実践の授業が夜暗くなるまで行われました。大まかに理論の内容をあげると、“治療的乗馬の4つの領域”、“治療的乗馬の馬”、“馬を介した特殊教育的支援”、“感覚とムーブメント教育”、“論文読解と内容把握”、グループワークなどでした。

厩舎で行われた実践の授業もまた、私にとってとても興味深いものばかりでした。たとえば、“馬の選択と馬体評価”の授業では、実際に厩舎から5頭の馬やポニーを屋内馬場へ連れてきて、その馬の骨格や歩様、性格や調教段階等を観察評価し、その馬はどの領域(ヒポセラピー・特殊教育的支援(軽乗、乗馬)・馬車など)でどんな対象(早期療育、軽度発達障害を持つ児童のグループ、身体障害を持つ成人、精神疾患を持つクライアントなど)に適しているかを話し合いました。そのほか、さまざまな引き馬のテクニック、調馬索、ラウンドペン*3での馬との関係づくりの実践なども、自分の実習先で実際にすぐに取り入れることのできるものばかりで、参考になりました。

*1 <http://www.rombergbk.de/>
*2 http://www.dkthr.de/staat_weiterbildung.php?n2=inhalte_und_organisation&n3=module

*3 橋で囲まれた丸馬場 馬具や調馬索を着けず、人の動きや身振りで馬と対話し関係を築く(人がリーダーシップをとる)

「治療的乗馬」研究集会2012報告

帝京科学大学、本会理事
小川家資

第8回「治療的乗馬」研究集会が、11月3、4日の両日オリンピック記念青少年総合センターにて開催されました。今回の研究集会は、「気づき」をキーワードとして運動器と心(意識)のつながりや広がりやをテーマとして開催されました。

初日の記念講演(1)では、堀美和子氏(国際フェルデンクライス連盟公認プラクティショナー、スポーツータルコーディネーター)が、「骨格・呼吸・身体の動きを意識する」というテーマでからだの動きを意識することの大切さを実践例から説明されました。

次いで、今回の研究集会から「学生・大学院生等による報告・発表」の時間帯が設けられ、麻布大学金田宏住さん、東京農業大学吉川将平さん、帝京科学大学毛塚夕陽さんが馬にかかわる研究や実践報告をされました。この分野での学生諸君の今後の活躍に期待したいものです。

2日目の記念講演(2)では、稲波弘彦氏(岩井整形外科内科病院長、本協会副理事長)が「腰痛疾患の診断と治療ー困難な例の治療経過ー」というテーマで、腰痛疾患について豊富な事例から映像を使ってわかりやすく説明されました。

続く実践報告は、以下の4件が行われました。
はじめに、黒田明子氏(NPOゆきわりそうハローヒポ)による「[ポニーと歩こう！中山道宿場町の旅]を継いで」という、中山道で



ポニーとともに歩くというユニークな活動の準備、実施、振り返りが報告されました。参加された子どもたちも大変ではあったが、実りのある活動であったことが感想として述べられていました。

次いで、例年報告されています特別支援学校でのポニーの飼育について、谷ッ田諭美氏と小松文氏(埼玉県立深谷はばたき特別支援学校)がその後のポニーを介した活動を報告されました。併せて、校長の宇田川和久氏よりポニーの飼育が子どもたちにどのような変化をもたらしたか、学校がポニーを飼育するご苦労等について追加説明がありました。

三題目に、前原裕紀子氏(富山市ファミリーパーク)から「誰もが集える動物園を目指して」と題して、動物、里山、地域の3つをテーマとして行われている事業に位置づけられた障害者乗馬活動の導入についてその経緯と今後の課題が報告されました。動物園での障害者乗馬活動は新しい試みであり、今後の展開に期待したいと思います。

最後に、「脳梗塞後遺症患者への乗馬の効果」(廣瀬昇氏・跡美友章氏；帝京科学大学医療科学部、滝坂信一氏、小川家資氏、今野直人氏；同大学生命環境学部、志賀道夫氏)と題して、約6ヶ月にわたる乗馬による効果分析の試みが報告されました。理学療法、人間工学、馬、治療的乗馬それぞれの観点から報告がなされ、最後にクライアントの志賀氏からの感想・意見でまとめられました。会場から、このような貴重な取り組みを是非継続してほしいとの意見がでていました。

2013年 海外の研究集会予定

4月26・27日

- 人間・動物関係会議
- 人、動物そして自然:新しいパラダイムをつくる
- 場所:グリーンチムニー農場・野生生物センター(合衆国、ニューヨーク州ブルースター)
- コンタクト:Michael E. Kaufmann
- 連絡先:E-mail:mkaufmann@greenchimneys.org
- Telephone:(845)279-2995
- インフォメーション:www.greenchimneys.org/hai2013

5月6・7日

- 治療的乗馬上級トレーニングコース
- :全分野におけるアシスタント
- 主催:イタリア治療的乗馬協会(CNRAF ANIRE ONLUS)
- 対象:中等学校卒業生
- 場所:CNRAF ANIRE ONLUS(イタリア、ミラノ ピアッツァベルチェッティ)
- 連絡先:E-mail:info@cnranire.it

5月6～31日

- 治療的乗馬上級トレーニングコース
- スポーツトレーナーー障害者に対する乗馬サポーター試合ースポーツ教育分野
- 主催:イタリア治療的乗馬協会(CNRAF ANIRE ONLUS)
- 対象:ISEF(体育協会)、乗馬インストラクター、カリキュラムに合致する教育者等(高等学校)
- 場所:CNRAF ANIRE ONLUS(イタリア、ミラノ ピアッツァベルチェッティ)
- 連絡先:E-mail:info@cnranire.it

5月8～26日

- 治療的乗馬上級トレーニングコース:知的分野
- 主催:イタリア治療的乗馬協会(CNRAF ANIRE ONLUS)
- 対象:教育者、教員、教授、補助教員
- 場所:CNRAF ANIRE ONLUS(イタリア、ミラノ ピアッツァベルチェッティ)
- 連絡先:E-mail:info@cnranire.it

5月13～16日

- 第10回 アリゾナ・プレスコット馬介在学習・精神保健実践集会
- チャペル・ロック会議場(合衆国、アリゾナ州プレスコット)
- 連絡先:E-mail:info@cnranire.it
- インフォメーション:www.prescott.edu

5月28・29日

- USPEA 調教師教育プログラム
- 場所:カーリスルアカデミー
- スプリングクリーク農場(合衆国、メイン州ライマン)
- コンタクト:MJoyce Brown
- 連絡先:E-mail:jbrown@carlisleacademymaine.com
- Telephone:207-985-0374
- インフォメーション:www.carlisleacademymaine.com

5月30日～6月1日

- USPEA3日間トレーニングシンポジウム
- 場所:カーリスルアカデミー
- スプリングクリーク農場(合衆国、メイン州ライマン)
- コンタクト:MJoyce Brown
- 連絡先:E-mail:jbrown@carlisleacademymaine.com
- Telephone:207-985-0374
- インフォメーション:www.carlisleacademymaine.com

6月10～13日

- 治療的乗馬上級トレーニングコース:指導者
- 主催:イタリア治療的乗馬協会(CNRAF ANIRE ONLUS)
- 対象:調教師
- 場所:CNRAF ANIRE ONLUS(イタリア、ミラノ ピアッツァベルチェッティ)
- 連絡先:E-mail:info@cnranire.it

6月17～21日

- 治療的軽乗資格認定コース:指導者
- 主催:イタリア治療的乗馬協会(CNRAF ANIRE ONLUS)
- 対象:適合するカリキュラムの実施者(高等学校)
- 場所:CNRAF ANIRE ONLUS(イタリア、ミラノ ピアッツァベルチェッティ)
- 連絡先:E-mail:info@cnranire.it

6月24～28日

- 馬車競技およびロングレイン資格認定コース:指導者
- 主催:イタリア治療的乗馬協会(CNRAF ANIRE ONLUS)
- 対象:適合するカリキュラムの実施者(高等学校)
- 場所:CNRAF ANIRE ONLUS(イタリア、ミラノ ピアッツァベルチェッティ)
- 連絡先:E-mail:info@cnranire.it

10月1～3日

- 馬調教資格認定コース
- 主催:イタリア治療的乗馬協会(CNRAF ANIRE ONLUS)
- 対象:適合するカリキュラムの実施者(高等学校)
- 場所:CNRAF ANIRE ONLUS(イタリア、ミラノ ピアッツァベルチェッティ)
- 連絡先:E-mail:info@cnranire.it

<2014年>

10月もしくは11月

- 第18回理学医療・リハビリテーション世界大会
- 組織委員会:理学医療・リハビリテーション協会
- 国際メキシコリハビリテーション協会
- 場所:メキシコ、カンクン
- コンタクト:Adriana Sanchez
- 連絡:E-mail:adriana.sanchez@hoga.org.mx
- インフォメーション:www.hoga.org.mx

以上、HETI(<http://frdi.net/>)から